

大道塾とは

大道塾は空手から発展した「格闘空手」の団体として東孝塾長により1981年宮城県仙台市に創立され、現在は東京都豊島区に総本部をおく、日本有数の規模（現在国内100ヶ所以上、海外約50ヶ国）に支部をもつ**総合武道**の団体です。「NPO国際空道連盟」および「(社)全日本空道連盟」の傘下団体として、実戦性と安全性を重視した武道スポーツ「空道（※1）」の普及に勤めています。

※1 「空道（くうどう）」：頭部に「ネオヘッドギア空（ねおへっどぎあ くう）」という特別に開発された防具を着用し突き技、蹴りに加え、投げ、頭突き、肘打ち、金的蹴り、寝技、寸止めマウントパンチ、関節技、絞め技など様々な攻撃が認められる総合武道

「大道塾」の“大道”は「大道無門（※2）」大道に至るに門なし。即ち、人の世の全てが修行の糧、至高に辿り着く道程となりうるという言葉から借りており、先入観や、固定観念を避け、全てを包含し、しかし一つには偏らない自由、開放を塾是としています。

※2 「大道塾」という名称の由来：

中国、南宋の慧開和尚の書「無門関」の序文

「大道無門千差路有 透得此関乾坤独歩＝大道無門、千差の路有り。この関を透得せば乾坤独歩ならん」を典拠とします。即ち（仏法の）「大道（至高）に至るには一定した門がない＝大道（至高）に至る路は無数にあり、四方・八面一切のものが修行になる。この路の関（関門＝難所＝修行）を透（透＝通過）得（できれば）、乾坤（天地＝人世）を一人でも（堂々と）歩める」という言葉に由来しています。

大道塾は実戦的でありながら社会に認知される武道スポーツ＝空道を目指しています。

強くなるため稽古・努力が『格闘家としてだけでなく人間として完成する』ために役立つという信念から人間形成・教育の場としての道場であるという意味を込め『大道塾』と名付けられました。

大道塾塾生は習熟度に応じて帯によるクラス分けを行っています。

規定稽古日数および体力チェックの回数に基づき、所属の支部責任者の承認を経て昇級審査会に参加または試合審査を受けることができます。

級・段について

入門するとまず白帯（無級）となり、昇級審査を経て級が上がっていきます。

級・段	帯の色	
無級	白	
10級・9級	紫	
8級・7級	青	
6級・5級	黄	
4級・3級	緑	
2級・1級	茶	
初段～	黒	

審査の種類

次のいずれかを選択して受験できます。ただし試合審査は合宿時の審査を除き2回続けて受験する事が出来ません。

昇級審査会	年に複数回実施。基本稽古（手技・足技）、移動稽古（手技・足技）、投げ・関節技（※1）、および組手（※2）の内容による審査。
試合審査	公式試合の内容による審査。

※1 投げ・関節

緑帯以上は投げ、茶帯以上は投げに加え関節技を行う。下記の技から各々2種類選り3回ずつ行う。

- 首投げ（又は背負投げ、体落とし等、前方への投げ技）、大内刈り、小内刈り、大外刈り、足払いの5種類の投げ技。
- 腕ひしぎ（十字固め・膝固め・脇固め・腕固め・腹固め）腕がらみ・及びアキレス腱固め・膝十字固め」の8種類の関節技。
- 「裸締め・十字締め・送り襟締め・片羽締め・三角締め」の5種類の締め技。

※2 組手

- 白帯は先手（先に攻撃する）攻撃側が3～4本のコンビネーションで攻撃し、後手側は防御後、3～4本のコンビネーションで反撃する。まず下段蹴り無しで片方が先手を2回、次いで反対側が先手で2回行う（計4回の攻防）。次に下段蹴りも含めて2回ずつ行う（計4回、合計8回の攻防）。但し、突きは2本連続して1本と数える。
- 青帯は「基本ルール（顔面攻撃、投げ、寝技なし）」の連続組手を1分間戦うが前半30秒は下段蹴り無しで行い、後半30秒は下段蹴りも含めて行う。
- 黄帯は「基本ルール」の連続組手を1分30秒行う。
- 緑帯は「格闘ルール（顔面攻撃+投げ）」の連続組手を1分行う。寝技は無し。
- 茶帯以上は「空道ルール（「格闘ルール」+寝技）」の連続組手を1分30秒行う。
- 昇級審査については「昇級審査規定」を参照。